

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員と地域おこし協力隊員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓

1 経営上の特性

カンパニユラ・メデイウム（フウリンソウとも呼ばれます）は鐘状の花を6月ごろに多数開花する二年草です。花はかわいらしく、しかも気品がある上に水揚げ（水を吸い上げること）も良いことから、消費者から好まれる花きです。一方、花卉が傷みやすいことが、花市場への出荷における問題点でしたが、生産者が直接持ち込む直売所ではその心配が大幅に解消できます。

欠点としては、二年草ですから播種（種まき）したその年には開花しないので、翌年の開花になり、栽培期間が長くなることとで



2 作型（露地栽培）

【1年目】

▼播種：5月中旬 ▼仮植：6月下旬 ▼定植：10月上旬

【2年目】

▼開花：6月中旬～7月中旬

※灰色かび病：植物の蕾・葉・茎などに淡褐色の病斑ができ、病斑が拡大するとそこが枯れ、灰色のカビに覆われる。

3 育苗

市販の播種用土に播種しますが、種子が大変微細なので覆土は少ない方が良いでしょう。2週間程度で本葉が展開しますが、このころから葉が触れ合わない程度に間引きをします。

本葉が3～4枚のところに7センチ間隔で仮植します。

4 定植

日当たりが良く、排水性の良い圃場を選び、定植の半月前にはpH6程度を目標に石灰質肥料を施用するとともに、チッソ、リン酸カリ共に成分量で1アール当たり400グラムを施用しておきます。植え付けは25センチの条間（株の列と列の間の幅）で株間を20センチ程度とします。

5 生育中の管理

翌春4月ごろ、5～6節の所で摘芯して、株当たり4～5本程度に仕立てます。また、草丈が30センチ程度になれば倒伏防止のためにフラワーネットを張ります。病害虫の発生は比較的少ない花きですが、灰色かび病（※）に注意しましょう。

問い合わせ

農業振興課農業振興係

☎0824・73・1132

地域で「生き生き」 獣害対策その一歩先へ！

地域おこし協力隊 草谷 夏枝

実りの秋！上手に対策を

電柵によるイノシシ被害対策

9月は稲刈りの季節です。耕作している人は「イノシシの被害に遭わないように」と祈る思いかも知れませんが、しかし祈る前に一度柵を点検しましょう。

▼電圧は4千ボルト以上あるか
▼電線の高さは地面から20センチ、40センチであるか
▼がよいし（電線を支持するための絶縁器具）の向きが外向きか

▼電線をくぐられないように水路の対策をしているか
昨年、田んぼがイノシシによる被害に遭ったお宅で柵の電圧を測ると、2千ボルトくらいしかありませんでした。草が伸びて漏電していたためで、すぐに草を刈って改善しました。

なぜイノシシは柵の電圧が下がった田んぼを見つけないのか、果たしてイノシシにそんな能力があるのでしょうか。実はその田んぼから法面を上がった所には栗の木があり、カメラを仕掛けると栗の実を食べるイノシシの映像が撮れました。つまりイノシシは柵の電圧が下がっているのが分かったのではなく、いつも田んぼの近くにきていて、電圧が下がったときにたまたま入ることができただけだったのです。

食べても人間が怒らない餌

放棄果樹、二番穂、野菜くず、青草などは、動物にとって「食べても人間が怒らない餌」です。守りたい田んぼのすぐ側に餌を置いていたのでは、被害に遭うリスクが高まってしまいます。

「作物ではないから食べられてもよい」と、放棄果樹などを放置していると、里に動物が増える原因になります。そして守りたい田畑が守りにくくなるだけでなく、クマなどを誘引し、人身被害にもつながりかねません。柿の木などは、冬に剪定をしておいて実を残さず収穫できるようにするか、収穫しないものは思い切って切り取っておくといいですね。上手に対策して、収穫を楽しみましょう。

問い合わせ

商工林業課林業振興係

☎0824・73・1124

